



ブックスキャンの 現場を見る

書籍を断裁し、
スキャンして
電子化し、
廃棄処分する
蔵書電子化サービス

●BOOKSCANインタビュー



●BOOKSCANインタビュー

注文が多いのは 古い本、医学書、学術書

個人の依頼により、紙の書籍を断裁し、
スキャナーで読み取って画像データにする自炊代行業者は、
2010年に話題になって以来急増し、
いまでは100社を超える数が存在するとも言われている。
私的利用が目的とはいえ、利用者個人ではなく、業者が代行することで、
著作権法に違反するのではないか、という問題が取りざたされており、
2011年2月には、日本書籍協会が「業として請け負う」のは
法を「逸脱している」という見解を公表している。
そんな代行業者のひとつが2010年4月にスタートしたBOOKSCAN。
BOOKSCANは、著作権者に複製の許可を利用者が取るように求めている。他の
代行業者は、複製代行も私的利用の範囲という立場が多い。
客からどんな本が持ち込まれ、どれくらいの需要があるのか、
実際のスキャニング行程はどんなふうに行なわれているのか、
現場をインタビュー取材した。
(このインタビューは2011年7月19日に行ないました)

資本金は一円。

自前のスキヤナ三台と断裁機、
ワンルームからスタートした

沢辺●ブックスキャンはどなたが始められたんですか？

大木●ぼくともう一人、社長の岩松と二名でスタートしました。もともと岩松は広島の方で料理人を九年間やっていました。従業員一五〇人くらいの飲食店の料理長をやっていたんです。ぼく自身は当時、IT関連の会社をやっていたんですが、飲食業もやってみたいなと思って、広島にいる岩松をこっちと呼んだんです。で、お惣菜屋さんをスタートさせたんですけど、なかなかうまくいなくて、半年で閉じることになって。そうはいつても、彼を東京に引っ張り出した手前、何か仕事をを用意しなきゃまずいなと。その頃ぼくは、iPadの発売に合わせて、自分の本棚にある二千冊の本を一冊一冊コツコツとスキャンしてたんですね。こ

れをビジネスにできないかと。他にもぼくと同じような考えを持つてる人がいるかもしれないと思ったんですね。ぼくがシステムを作り、岩松がオペレーション、それでスタートしました。それが去年の四月です。

沢辺●出資はどなたが？

大木●会社の資本金は、最初一円です。ぼくが個人で持っていたスキヤナ三台と、断裁機一台。最初は岩松の自宅のワンルームで始めました。五畳ぐらいのところで十分だろうと想定してたんです。ホームページも立ち上げて、いざやろうかなとTwitterでつぶやいたら、一気に広がった。それで、その日に「これは自分たちのやれる量じゃないな」と思って、翌日に不動産屋さんで物件を借りに行った。それも家賃八万円ぐらいのそこなんですけど。

沢辺●サイトに「合同会社 大和印刷」って出てましたよね。大

設立●2010年4月7日
所在地●東京都世田谷区上馬2-25-4
フレックス三軒茶屋ビル1F
事業内容●紙の書籍の電子化を代行
料金●個人……1冊100円～
出版社・著者……1冊1万円～
スタッフ●アルバイト含め約200名
URL●<http://www.bookscan.co.jp/>





◎プロフィール
大木佑輔(おおき・ゆうすけ)
1982年、5月生まれ。
株式会社ブックスキャン取締役システム担当。
詳しいプロフィールは、以下を。
<http://profile.yusukeooki.com>

和印刷をネットで検索したけど、ホームページにたどり着けなかつたんですが。

大木●大和印刷というのは、このビジネスを始めるために立ち上げた会社のひとつなんですよ。

沢辺●そうなんですか。てっきり、もともと印刷屋さんをやってたのかと。

大木●ではないです。

沢辺●では関係者の中に印刷さんはだれもいないんですか。

大木●だれもいないです。もともとは、大和印刷という会社を最初に作って、ブックスキャンを一企画として試しにやってみようかという位置づけだったんです。

ところが、会社を作ってから二週間後にはじめてブックスキャンサービスがどんどん大きくなってしまった。それで、株式会社ブックスキャンという会社名も登記したので。だから会社が二つになっているんです。

沢辺●合同会社大和印刷というのは、スキャン事業の他にどんなことをやろうと思っていたんですか？

大木●まったく何も考えていなかったです。ブックスキャンが一発目の事業だったんです。

沢辺●大和印刷って、まるで印刷屋さんのような名前をつけた動機はなぜなんです



◎プロフィール

中野浩司(なかのひろし)
1974年3月29日生まれ。
早稲田大学卒。

株式会社ブックスキャン執行役員副社長/COO
zLibro, Inc.(米国)President
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(CTC)、楽天株式会社を経て、2011年5月より現職。

か？

大木●将来的にはデザインの仕事などもやるのかなと思っただけですよね。

沢辺●合同会社大和印刷としては、ブックスキャン事業の他に事業は？

大木●やってないです。

沢辺●ブックスキャン一本なんですね。

大木●はい。

沢辺●ちなみに大木さんはおいくつですか？

大木●いま二九歳です。

沢辺●大学はどちらですか？

大木●大学、行ってないです。高校卒業しただけで働いて、四年間サラリーマン

やって、それで起業したんです。

沢辺●IT起業っていうと、慶應SFC(Keio University Shonan Fujisawa Camp

US)卒とかありがちだけど……。

大木●ぜんぜんそういう路線じゃないです(笑)

沢辺●大木さんの個人史にも興味が出てきたなあ(笑)。中野さんはいつから合流されたんですか？

中野●私は、今年の一月ぐらいですかね。

大木●そうですね。

中野●ブックスキャンは今後グローバル展開していくというところで、その一つとして、米国展開を考えています。